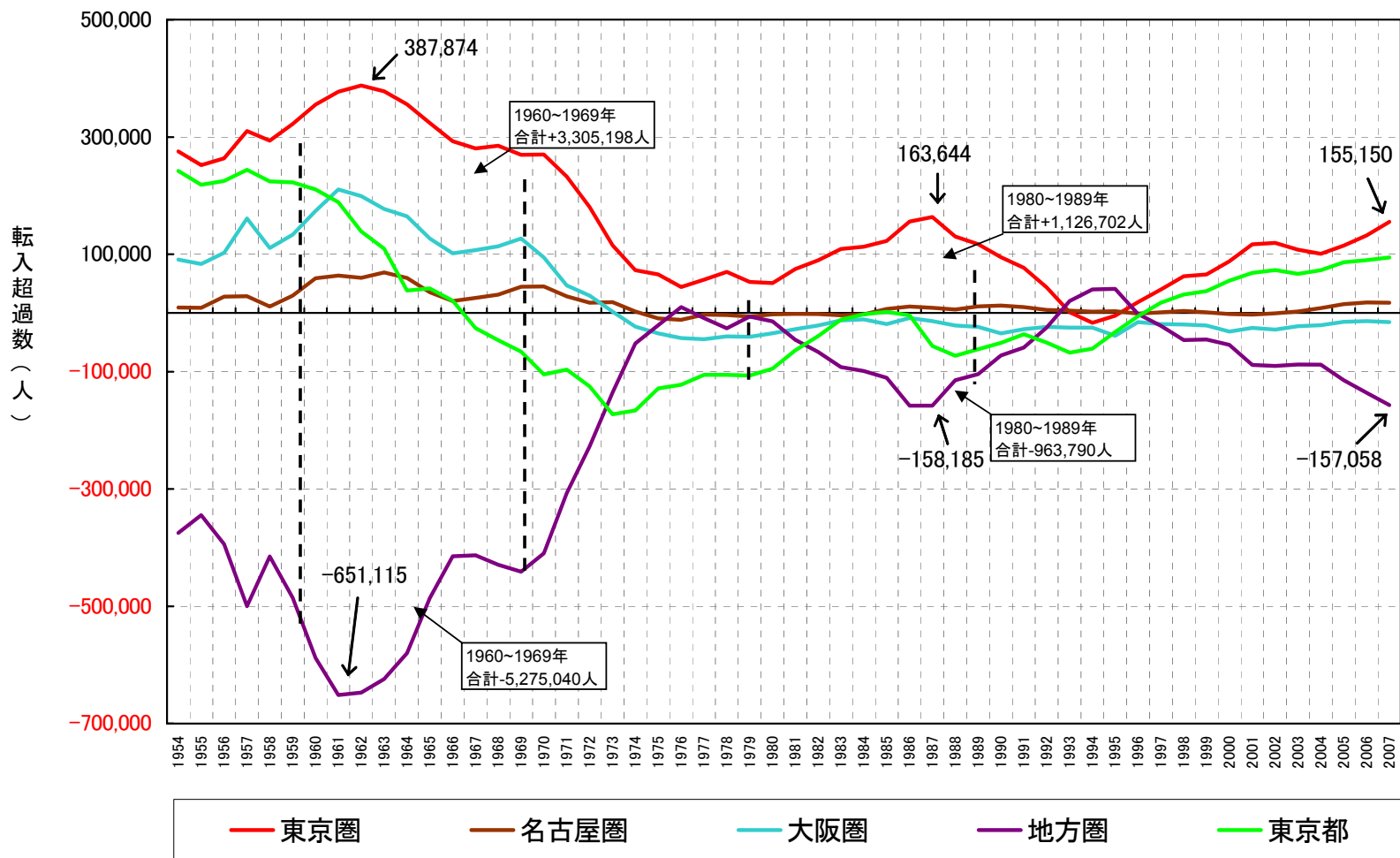


補足資料

平成20年6月24日

三大都市圏、地方圏及び東京都における人口移動の推移

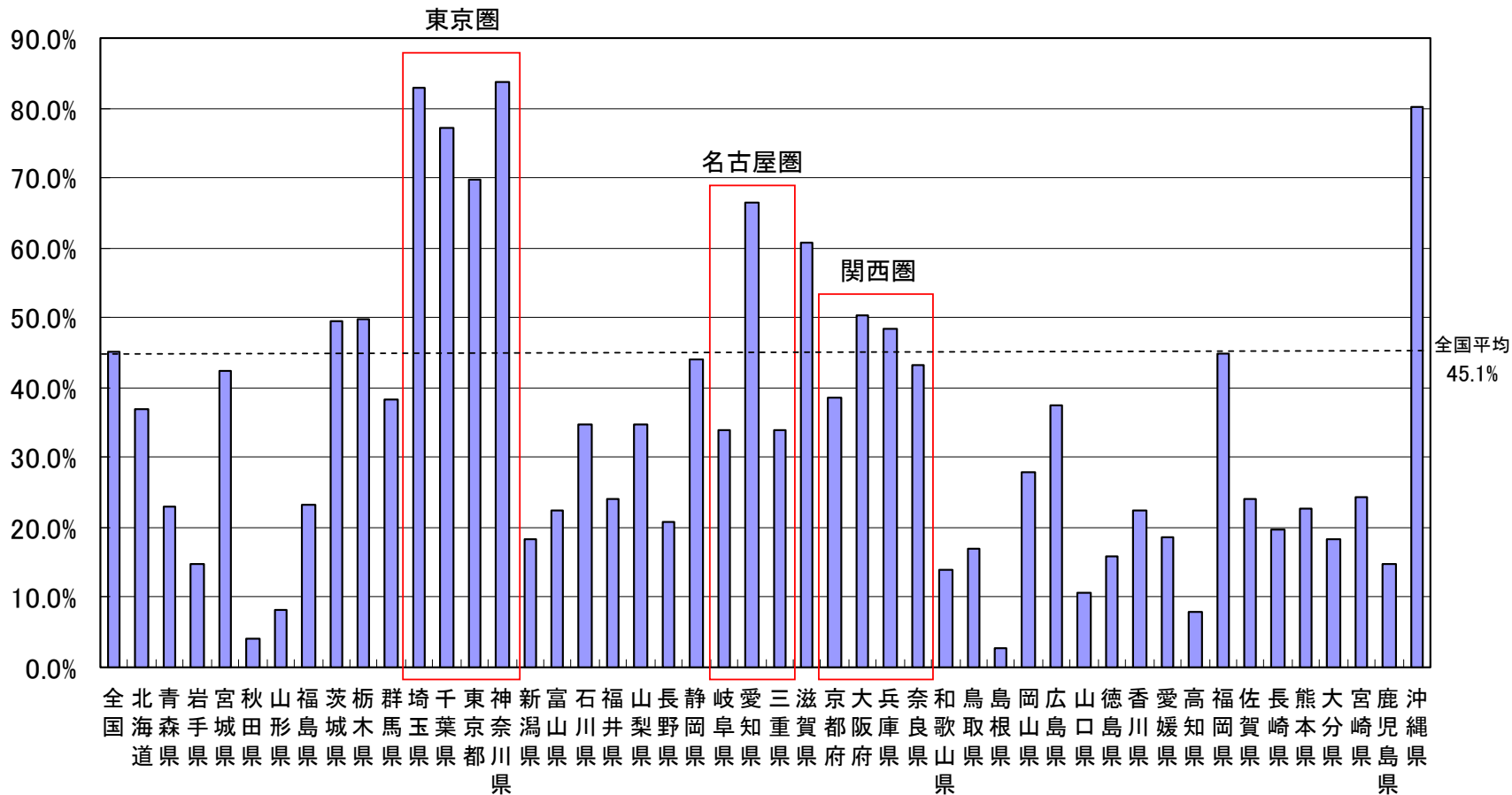


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに国土交通省作成。

注：地域区分は次のとおり。

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 名古屋圏：岐阜県、愛知県、三重県 関西圏：京都府、大阪府、兵庫県、奈良県
 三大都市圏：東京圏、名古屋圏、関西圏 地方圏：三大都市圏以外の地域

都道府県別の高齢者(65歳以上)人口の増加率(2005年→2035年)

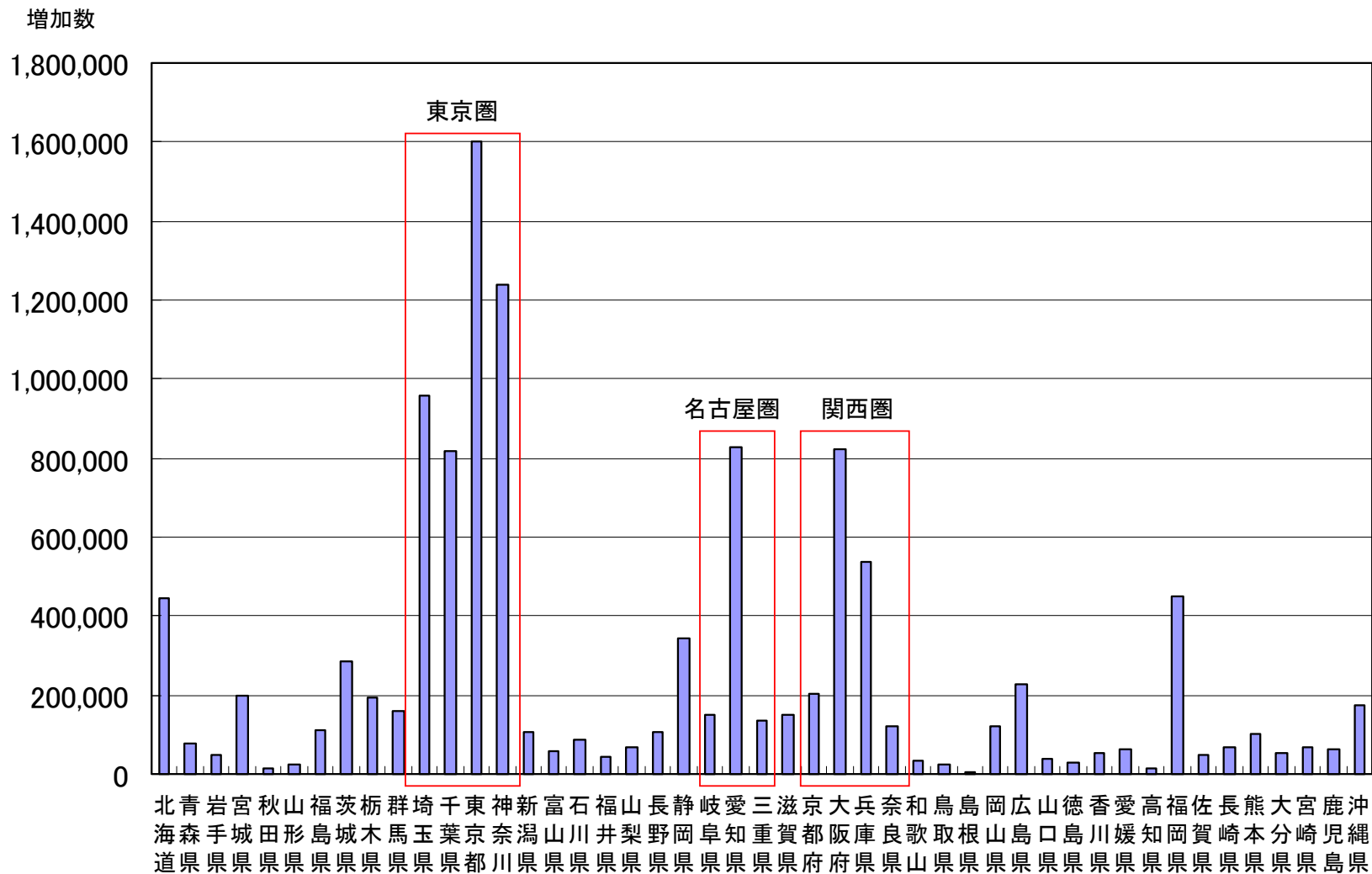


(出典)

2005年の実績値: 総務省「国勢調査」

2035年の推計値: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成19年5月推計)

都道府県別の高齢者(65歳以上)人口の増加数(2005年→2035年)



(出典)

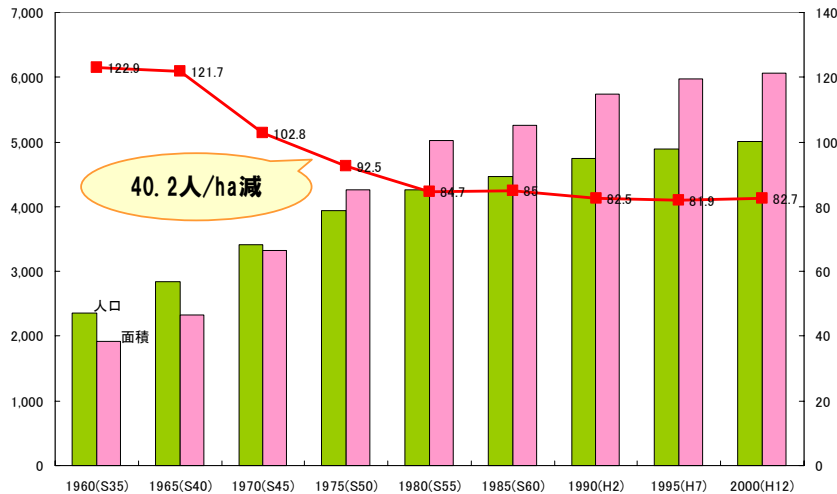
2005年の実績値: 総務省「国勢調査」

2035年の推計値: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成19年5月推計)

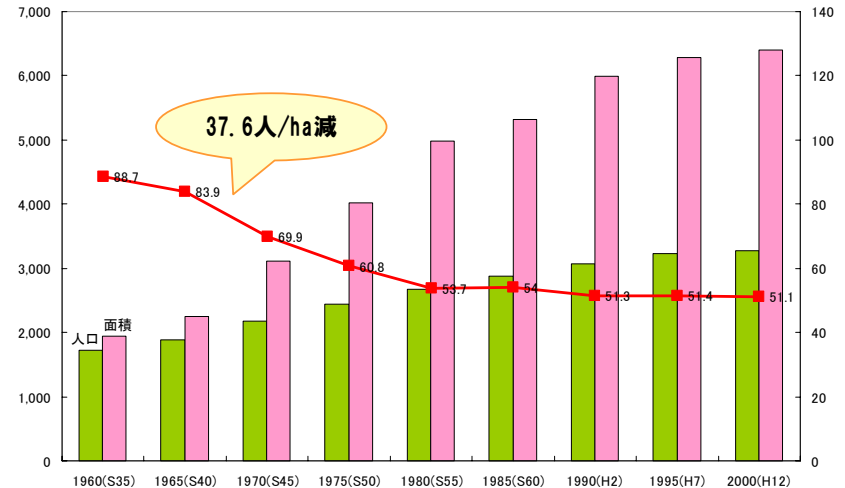
薄く広く拡散してきた都市

- 大都市圏・地方圏ともに昭和40年代から50年代半ばまでに大きくDID人口密度が低下。その後は横ばい傾向。
- 地方圏のDID人口密度は、haあたり50人程度に止まる。大都市圏においても、近年のDID人口密度は新都市計画法制定当時の地方圏の水準まで低下。

大都市圏のDID人口密度の推移



地方圏のDID人口密度の推移



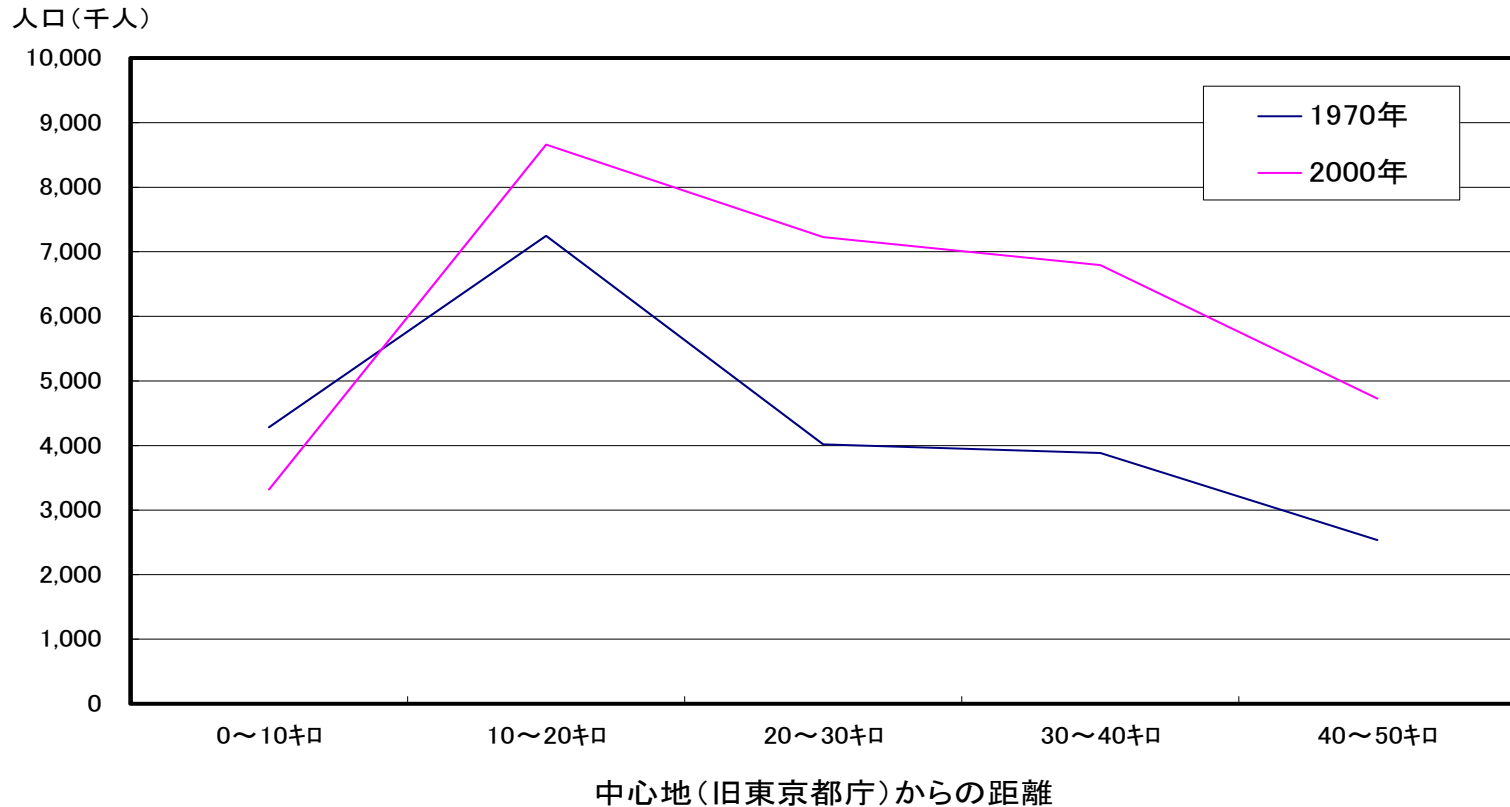
大都市圏は、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府、京都府、兵庫県、愛知県、三重県の合計

(長岡技術科学大学 中出文平教授 資料より作成)

東京圏における中心からの距離別人口の推移

東京圏における中心からのキロ圏別人口の推移を見ると、中心から0～10キロ圏域では減少する一方、20～40キロ圏域での増加が大きい。

キロ圏別人口の比較(東京)



(出典)
総務省「国勢調査」